



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：0335415151

担当者の所属・氏名 救命救急センター 看護師 香取雅美

【研究責任者】

聖路加国際病院 救命救急センター 看護師 香取雅美

当院にて急性期脳梗塞の診断を受けられた患者さんの、治療のタイミングに関する研究

1.研究の対象

- 1) 2020年7月から2022年9月の間、当院救命救急センターに、三次救急搬送、二次救急搬送、独歩にて来院した患者さん
- 2) 脳梗塞と診断され、血行再建術・アルテプラザー投与を行った患者さん。

2.研究の目的・方法

- 急性期虚血性脳卒中患者さんに対し、発症から4.5時間以内にアルテプラザーを投与することや血行再建術により可及的速やかに再開通することが、良好な転帰につながると推奨されています。急性期脳卒中患者診断から治療までに複数の部門・診療科の引継ぎが必要になるため治療時間の遅延が課題となっていたため、2016年に脳神経外科、救急科、放射線科、手術室、集中治療室の医師・看護師・放射線科技師で脳卒中チームを結成し、診察室入室から治療開始までの時間短縮の当院の取り組みが開始されました。この取り組みにより、プロトコル導入開始前2015年には19分であった上記時間目標を2021年には9分に短縮することができました。当院のプロトコルは、来院前救急隊通報時点で、脳卒中プロトコルに則るか判断することとなっており、脳卒中チームでは、来院前にプロトコルに則る判断をすることが時間短縮に有効であると考えられており、来院前に脳卒中プロトコルに則る判断がないと遅延につながるのではないかと指摘されていたが、検討はされていませんでした。

今回、急性期虚血性脳卒中患者さんに対し、脳卒中プロトコル対応判断のタイミングが診察室入室からCT撮影終了時間に影響があるか検討することを目的としております。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2025年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2024年5月7日を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

対象者背景：ID、性別、来院方法、CT検査結果：診断閉塞血管、来院前後プロトコル判断の有無、診察室入室からCT検査終了までの時間 等